



入学式を終え、教室で先生の話聞く新入生(田山小)

# 話題 ピックアップ まちのニュース

皆さんからの情報をお寄せください。

企画財政課広報広聴係(☎・内線1202)

## 晴れ渡る空が門出を祝福

### 市内小・中学校で入学式

市内小・中学校の入学式は4月6日から8日にかけて行われ、小学校10校で151人、中学校4校で146人の新入生が学校生活をスタートしました。

4月7日に行われた田山小の入学式では、新生活に期待を膨らませる児童3人が元気よく入場。名前を呼ばれると体育館いっぱいに大きな声を響かせました。

式が終わり、教室に戻った阿部凛咲さんは「勉強も頑張りたい、ドッジボールやかけっこなどたくさん遊びたい」と目を輝かせました。



新入生を代表し、角掛涼太さんが誓いを述べました(西根中)



見学時、住民の関心が高かった音楽練習室。壁は吸音素材

## 地域活動拠点が心機一転

### 平館コミセンの改築工事が完了

平館コミュニティセンター落成式は3月20日、同センター敷地内で行われ、関係者ら約60人が見守る中テープカットで開所を祝いました。

市で初の防音設備を備えた音楽練習室を設置。工藤弘光センター長は「待ちに待った完成。みんな輪になって活気をつくりたい」と期待しました。

見学をした高橋節子さん＝大泉＝は「音楽練習室は愛好会や若い人が使い、発表会を開いてほしい。私もカラオケでストレス発散したい」と笑顔で話しました。



阿部郁夫さんに市防犯隊員の委嘱状を交付。任期は令和6年3月31日まで(4月6日、市役所)



4年度市行政連絡員会議が開かれ、新任の44人が出席(4月5日、市役所多目的ホール棟)



活動最終年を迎え、最後の報告をした吉田力隊員(3月23日、地域おこし協力隊活動報告会)





計9,000枚の162穴トレーが9棟のハウスに並びます

## 満開願い、せっせと種まき

育苗農家らが力を合わせてりんどう播種

市安代りんどう育苗組合(伊藤重文会長)は3月21日から25日までの5日間、市内播種施設で4年定植分のりんどう苗1,458,000本の種まきをしました。

22日は安代の夏、秋のほか試作品種などを播種。育苗担当農家や切り花りんどう生産者ら約30人が息の合った様子で手際よく作業を進めました。

伊藤会長は「翌年以降の収穫につながる重要な作業。組合で3カ月育苗し、注文数分の健康な苗を切り花生産者に届けたい」と真剣な表情で話しました。



100歳まで頑張りたいと意気込む山本さん(右)

## 長年の功績をたたえる

総務大臣表彰(統計調査員)を受賞

統計功績者に対する総務大臣表彰を受賞した山本裕洗さん＝兄畑＝は3月24日、佐々木孝弘市長に受賞の報告をしました。

昭和48年の県農林業統計調査から調査員となり、国勢調査や農業センサスなど多くの調査に従事。正確かつ丁寧な業務遂行が高く評価されました。

山本さんは「受賞できてとてもうれしい。これからも体が動く限り統計調査員を続けていきたい」と笑顔で語りました。

## 舞って感じる日本文化

寺田学童保育クラブの児童が能楽を体験

能楽体験(七時雨いきいきネットワーク主催)は3月24日、寺田コミュニティセンターで開かれ、児童13人が扇や能面などに触れながら日本文化を身近に感じました。

シテ方宝生流金野泰大さんを講師に迎え、舞を体験。床を強く踏む音で笛の音色の変調を合図したり、クイズ形式で道具にまつわる歴史を学んだりして楽しみながら伝統芸能への学びを深めました。

遠藤類くん(寺田小3年)は「踊りは難しかったけど、道具に触れて楽しかった」と笑顔で話しました。



子どもゆめ基金の助成を活用した無料の体験

## 感謝の思い胸に成長誓う

北京冬季五輪に出場した土屋選手が表敬訪問

クロスカントリースキー競技で北京冬季五輪代表の土屋正恵選手は3月22日、佐々木孝弘市長を表敬訪問し、住民、市職員らが拍手で歓迎しました。

佐々木市長は「冬の北京の厳しい環境の中、4種目にわたって奮闘した姿はまさに市民の誇り」と花束を手渡して労をねぎらいました。土屋選手は「こんなに多くの地元の方々に迎えられ、感謝の気持ちでいっぱい。今回の悔しさを次につなげ、日本を引っ張れる存在になりたい」と4年後を見据えて抱負を述べました。



[SAJ令和4承認第00548号]

選手村での思い出やレース内容を振り返る土屋選手



沖縄県外で生活するのは初めてという岸本さん

## 友好の絆と新たな出会い

友好都市沖縄県名護市からの派遣職員を紹介

市では友好都市の沖縄県名護市と相互に職員を派遣し実務研修を行っており、4月から同市職員の岸本大平さんが、商工観光課観光振興係で勤務しています。

「観光関係の業務は初めてで、事務の進め方などに戸惑うこともありますが、周りの皆さんに教えてもらい、和気あいあいと仕事をしています」と温かな笑顔で話すとともに、「沖縄では経験できないスキー、スノーボードに取り組みたい」と期待を膨らませています。



[SAJ令和4承認第00545号]

銅メダルを掲げ、笑顔で記念撮影する永井選手

## 悲願のメダルかなえた夢

北京冬季五輪で銅メダルの永井選手が表敬訪問

北京冬季五輪ノルディックスキー複合男子団体に銅メダルを獲得した永井秀昭選手は4月8日、佐々木孝弘市長を表敬訪問し、メダル獲得を報告しました。

佐々木市長は「市民も北京に届くくらいの気持ちで応援した。永井選手に続く選手の育成にも力をいれたい」と力強く語りました。永井選手は「過酷なコンディションだったが、最後の五輪でメダルを持ち帰ることができて良かった。多くの人がメダルに触れ、競技に関心を持ってほしい」と期待を寄せました。

## すなっぷギャラリー



ハチマンタイラーが黄色い羽根を配りながら、春の交通安全を呼び掛け(4月11日、大更小)



開通後最初の日曜日には、多くの人が訪れ、雪の回廊を楽しみました(4月17日、八幡平アスピーテライン)



災害に備えるため、自主防災組織の必要性を学ぶ市民講座を開催(3月18日、大更コミセン)



3年度安代漆工技術研究センター修了生による制作展を開催(3月29日、市役所玄関ホール)



市消防団長から新入団員に辞令が交付されました(4月5日、市役所多目的ホール棟)